

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101875		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム田園 2階		
所在地	〒020-0051 岩手県盛岡市下太田榎14-2		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活リズムに合わせ、塗り絵・編み物・パズル等レクを好みに合わせて行い、伸び伸びと生活して頂いている。日中は園内で体力低下予防に取り組み、毎日歩行運動や軽体操、踏み台昇降を行い、運動機能向上・筋力アップ、バランス感覚維持に努め、転倒予防を心掛けている。又、バランスの取れた食事を提供し、外気浴を行ったりして心身共に健康で安全・安心な生活を送れるよう支援している。コロナ禍以降、地域との交流、家族様との交流は一部制限継続されているが、そんな中でも毎月何かしらの行事を行い、皆様に楽しんでもらい、ご家族様から信頼してもらえるグループホームで有る事を目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある開設20年を迎える1階と2階の2ユニットの事業所であり、同法人のデイサービスとグループホームが同敷地内に設置されている。利用者の体力維持に向けたテレビ体操や踏み台昇降機、食事前の嚥下体操や水分補給を行い、自立した生活を過ごすことを念頭に取り組んでいる。ホールでは利用者と職員が笑顔で談笑する姿も見られ、利用者の希望を聞き、意向に沿ったレク活動で自分らしく生き生きと笑顔で過ごせる介護サービスを提供している。法人の理念である「いつもあなたのそばにいて心の声を聞いています」を実践するため、利用者の言動や行動、表情に気づく力が必要であり、その力を養うため何が必要なのかについて管理者を中心に職員と話し合い、具体的な行動を行いより良いケアに向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務所、各階の廊下に掲示している。全職員が文書で分析をし、内容を共有して方向性を定め、利用者がその人らしく生き生きと生活出来るよう、介護の基本となっている。	法人の年間計画に基づいて理念についての勉強会を開催し内容を共有している。特に介護の中での気づきに対しての深度化を深めたいとしている。	事業所としての目標を定め、理念について職員と話し合い実践の中に落とし込めるように努めることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、沿道の花壇に花を植えて街の美化に参加している。又、盛岡市のガーデニングプロジェクトに参加している。地域の方が行事の際にボランティアで余興を披露し、利用者の楽しみとなっている。地域の新聞販売店から、毎月古新聞を頂き活用している。	コロナ禍以降も隣接の保育園で遊ぶ子供たちの様子を遠くから見たり、声を聞く機会を作っている。町内の美化活動に参加してプランターに花を植え水遣りをして地域とのつながりを大事にしている。隣接する保育園の3階を臨時の避難所として使用する許可をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	盛岡市の小中学生職場体験受け入れにも登録していて、要望があれば受け入れ可能である。又、運営推進会議委員の皆様に、現状報告と共に認知症の様々な事例を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会代表・民生委員・近隣保育園長・福祉センター長・ご家族様代表・地域住民代表にも委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見や地区の情報、貴重なアドバイスを頂く等している。又、年2回の火災避難訓練に参加協力して頂き、防災でも適切なアドバイスを頂いている。	コロナ禍の5類移行により書面開催から対面の会議となり、委員から運営に対する意見、提言を直接いただいている。議事録は家族には郵送し事業所内にも掲示している。前回の会議に併せて実施した火災想定避難訓練では、委員の方も参加し意見、感想をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や疑問点は電話やメールで問い合わせる等している。また、難しい事例は包括支援センターの職員に相談したり助言を頂く等連携を図っている。	市の担当者とはメールや電話で連絡や不明な事項について相談している。地域包括支援センターは運営推進会議に参加しており、その都度連絡や地域の状況を情報交換している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム田園 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の意思を尊重し、危険がない限り自由にして頂き見守りをしている。玄関の施錠に関しては防犯上の理由から行っているが、季節の良い時期は玄関を開放し自由に出入りしベンチで外気浴をして過ごしている。外出に関しては、病院受診時に余裕がある時は少し遠回りして帰園したり、行事ドライブ等で代替している。	利用者が自由に行動することを大事にしている。玄関は防犯上の理由で施錠しているが、帰宅願望のある利用者には気配を察知し、玄関先の椅子に座る等の対応を行っている。夜間は、シルエットセンサーや離床センサーを活用している。身体拘束の勉強会を開催し、身体拘束をしないケアの理解に努めている。また法人主催の身体拘束廃止委員会の内容は、運営推進会議でも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者権利擁護基本的人権から虐待防止までWeb研修を毎月行っている。グレーゾーンで見逃されそうな事等、些細な事でも見逃さないよう情報共有をし、未然に防げるよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときは、担当者が市の職員と協力しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては、十分な説明をするとともに疑問や不安等を伺い理解して頂き、契約及び退去となっている。また、入居・退居後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で、問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様1名代表に参加して頂き、助言・協力を頂いている。その他のご家族様には面会時等状況を報告し、ご意見を頂くよう議事録を送付している。その他にも、玄関にご意見箱を設置している。ご家族様への田園便りは全体の活動を、利用者様便りは個人を主として年4回、担当者のメモを付けて送付し喜ばれている。	うまく言葉で話せない利用者からは、身振りなどで感じ取るようにしている。意見箱を設けているが、家族から意見をいただくことはない。運営推進会議に家族代表者が参加しており、その席でご意見や要望を伺うように努めている。また、家族に電話連絡した際や面会で来所された際には、出来るだけ家族と話し合うことを心がけている。田園だよりを4回発行しており、事業所の取り組みをお伝えしている。	運営推進会議には決まった家族だけでなく他の家族の参加も依頼し、事業所への要望をできるだけ広く聞ける体制の構築を期待します。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム田園 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し、多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。また随時提案・意見を聞いて改善している。年度初めに職員個々に意見、要望を聞く機会を設けている。また、朝の申し送り時に疑問や質問を意見交換し、職員の声が反映できるように工夫している。	職員間で何でも話せる職場風土があり、意見、提案が出されている。職員は行事、防災、環境美化、リスクマネジメント、広報などの各委員会に属して活動し、意見交換や要望を挙げやすい環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に職員が各々役割を持ち、よりやりがいや評価しやすい環境が作られている。また、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足やコロナ感染の不安もあり、勉強会や対外的な研修会の参加が減っている状況ではあるが、毎月WEB研修を行いテーマを決めての勉強会を行っている。新人職員には、盛岡市の新人研修会に参加してもらう等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のいわて地域密着型サービス協会の会議に参加したり、いわて地域密着型サービス協会主催の事例報告会に参加したりして、他事業所との交流を行っている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時から事前面接の時などに、本人の心配事や不安等を汲み取るよう努めている。また可能な限り見学に来ていただき雰囲気を感じてもらおう等、不安の解消に努めている。本人が困っている事などを傾聴し、電話による問い合わせにも耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりや現状を知り不安、要望を組み合わせ、安心して頂けるよう支援に努める。又、連絡時等に近況報告をし、本人の想いとご家族の要望などを組みとりながら、より良い関係性を築けるよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	些細な事でもご家族様に連絡を取り、状況を説明し相談している。ご家族様が受診対応をしている方もおり、又広報・利用者だよりやケアプランを郵送しており、利用者の現在の状況を理解し把握してしてもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝いや洗濯物たたみや干し、新聞たたみ、居室の床はき、テーブル拭き等出来る力にあった役割を分担し、社会参加する事でお互いの信頼性を築いてる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以降、以前は行っていたご家族様参加の行事がほとんどできなくなってしまった(敬老会、新年会等)。面会等も直接対面での面会は制限しているが、玄関ガラス戸越しの面会は可能としている。少しでもご家族様の意向に沿って、ご家族様からの贈り物や写真をお部屋に飾ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の方の面会では、ガラス戸越しではあるが一緒に写真を撮ったり、それをお部屋に飾ったりしている。また電話があった場合は、直接ご本人様と会話してもらえるようにしている。	利用者が高齢になり、近所の方や馴染みの方の面会はコロナ禍後でも少なくなっている。電話や手紙の返事を書くときは、お手伝いをして途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの利用者同士の交流に加え、職員が仲介することで他の利用者が交わり関わりを築けるような支援、気の合いそうな方々であれば席を隣にしたりとかして、気軽に交流できるよう見守りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され特養入所される方が多いが、コロナの影響でまだ面会制限があり、お会いできない機会が多い。また、入院され、その後退去となった利用者様のその後についての相談や支援を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない言葉が、本人の希望や要望であることが多く、見逃さないようにしている。利用者との日常の会話で得た情報や生活日誌での記録を共有し、心境や現状を察するよう努めている。些細なことでも職員間で情報を共有し、共通した支援に努めている。	意思疎通が難しい1名の利用者とは、目線などで思いを理解するようにしている。日々の会話から思いを言葉にすることもあり、申し送りノートで職員間で共有しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み後は事前訪問で情報収集し、入居前の生活の様子情報を、家族、担当ケアマネ、施設職員、入院先から情報提供をいただき把握している。入居後は、ご本人様の日常の会話や手伝いなどの行動、あるいは、ご家族様面会時に生活歴を聞き取り把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週間トータルチェック表をもとに排泄、入浴、食事量、心身の状態を把握し、日常生活の変化を観察し記録している。必要時には、職員間で情報共有し話し合っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の心身の状態観察を行い、職員間での報告・連絡・相談を行っている。3か月ごとのケア会議を通して、介護計画を作成している。状態変化時には、ご家族様に連絡を行っています。	生活歴や本人のこれからに向けた意向などを参考に、ケアマネが介護計画の原案を作成している。3ヵ月毎に開くケア会議には、ケアマネ、居室担当のほか、他の職員も参加してモニタリングを行い、そこで介護計画の見直しを行っている。利用者と家族に内容を説明し、了解を得て成案としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて、なかなか起きてくれない方には食事やおやつの時間を変更し対応している。また不穏気味の利用者様は、玄関先にお連れして外気浴やお花を見て頂き、気分転換を図っている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	依然コロナの影響もあり、児童・園児の納涼祭へのご招待や、地区のお祭りに参加する等、行事を通して入居者と地域の交流は自粛しているが、運営推進会議では、園での様子や現状を報告し意見交換が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続される利用者様の家族へ状況報告や、必要時は主治医へ情報提供書や電話連絡とで連携を図っている。また、協力医への受診・訪問診療の対応をして、適切な医療を受けている。	入居前からのかかりつけ医を受診している8名の利用者は、家族が受診に同行し、家族に都合がある場合には職員が対応している。定期的な内科訪問診療に併せ今年度から訪問歯科の診療対応が可能になった。また、訪問フットケアサービスを利用し、利用者の足爪のケアや足元のトラブルの改善を図り、転倒予防や足トラブルの早期発見につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時には責任者に報告し、指導の下、協力医の指示を受けている。些細な変化を見逃さず、早期発見に努めている。また急変時は、救急搬送の手配を早急に行い、管理者が駆けつけ救急車に同乗している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、安心して治療に専念できるよう、病院関係者との情報交換に努めている。入院時情報提供書を提出し、早期に退院できるように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。本人の意思を最大限に尊重し、家族、医師、田園担当者と情報を共有して、本人に一番良い方向を検討している。重度化や医療依存度が高くなる場合は、家族・医師・田園担当者協議の下に、入院や介護老人福祉施設への転院となっている。	重度化や終末期ケアについては、入居契約時に事業所の方針を説明し同意を得ている。終末期ケアについては家族の意向を聞き、希望に添えるようにしている。事業所での看取りの事例はない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に関して速やかに事故報告書を作成・提出し、職員間での情報への共有や今後の対応策について検討している。また、緊急時の対応マニュアルを共有し、応急手当等を定期的に施設内で研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練や年2回の消防立ち合い避難訓練を行っている。9月の盛岡市シェイクアウトに参加し安全確保行動と、プラスワン訓練として備蓄品の確認や施設内の危険箇所等の確認も行っている。運営推進会議委員の方々には、訓練参加や災害時の協力の了承を得ている。	避難訓練は年2回計画している。7月には、消防署立会で2階の火元を想定した訓練を行った。車椅子での避難は二人でも困難であり、課題や問題点を職員で共有し防災に取り組んでいる。全体での避難は短時間で言うことが出来ている。2回目は3月に予定している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格・特徴を重んじて声かけ・見守りをし、各個人に沿った対応を心掛けている。その方の尊厳を重視し、穏やかに日々を過ごして頂けるよう心掛けている。	利用者に声をかける時は「さん」付けで利用者個々の特徴を理解し、配慮した声かけや話し方に努めている。羞恥心にも配慮し可能な限り同性介助に努めている。希望の表出が難しい方に対しては、表情や仕草から本人の意図を汲みとるよう努めている。個々のペースで過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様の希望・訴え等に傾聴し、ご本人様の意思を尊重している。その上で、ご本人様が出来る事はご本人に任せ、危険が伴わない行動・安全を見守りしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしていただけるようにしている。体調等を考慮・危険がある場合を除き本人の想いに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切り、福祉床屋の利用をしている。ご家族様からご本人の衣類を持って来て頂き、ご自身の好みの服を着てもらっている。入浴後の衣類交換の際は、その人のイメージを思い描き、似合う服を選んでいく。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム田園 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った旬の食材を使い栄養バランスを考えたメニュー構成にしている。個人の状況に合わせて調理法を変えたり、代用品を提供している。食事後は、食器拭き、テーブル拭きなどのお手伝いを行っている。	献立ソフトにより本部から1年分の献立表が送られてきて、これに基づいて食材を調達し職員が調理して提供している。福田パンを楽しむ会や七夕にはちらし寿司を利用者とともに作り、季節を感じる工夫をしている。あとかたづけは利用者もできることを手伝い、家事の一端を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合わない食材がメニューにある時は盛り付けの工夫や調理法を変える等対応している。水分を摂らない方にはゼリーや果物等お好みの物を提供している。嚥下の難しい方には飲み込み易く工夫しトロミ剤を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや誘導で歯磨きをしている。必要な方にはブラッシングを提供している。また、利用者全員、歯科の訪問診療を受けている。夜間帯は義歯を洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度の高い利用者様には、定期的な声掛け、介助が必要な利用者様には、定期的な誘導をしている。いずれも排泄チェック表を記録し、汚染の軽減ができるよう支援している。	利用者全員に、排泄チェック表を作成している。チェック表を確認しながらタイミング良く声掛けを行い、トイレで排泄できるようにしている。可能な限り、布パンツで過ごせるように支援している。尿パットを月に200枚以上使用する方の使用量を減らすことができ、利用者の負担減にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の踏み台昇降や食事前の軽体操は日課となっており、水分補給、繊維質の多い食品の摂取は工夫している。便秘薬の必要な利用者には、主治医と連携し適切な便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の様子や状況を見ながら、声かけ誘導し、入浴介助している。拒否のある方もいるが、意向に沿った声かけをしながら、納得して入浴してもらっている。	入浴は週2回を基本とし、曜日は臨機応変に調整している。長風呂の好きな方など、希望を取り入れて対応している。体調に応じて臨機応変に対応し、同性介助にも努めている。入浴介助は、一対一のコミュニケーションの機会となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム田園 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビ視聴や馴染みの利用者様方の団欒で、安心して就寝できるような時間を持っている。又、何回も同じ事を確認される利用者様の訴えは、傾聴したり安心できる声がけで安眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の病気を把握し、お薬説明書を参考に職員間共有している。服薬介助時は、服薬確認シートを活用し、誤与薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を大切にできる事はやっていただいている。食器拭き、床はき、居室のモップがけ洗濯物干し、たたみ等できるところを進んでやっていただいている。季節行事の飾りつけや準備など、楽しみながら行う事で社会参加になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ・インフルエンザ感染症が蔓延しており、外出を自粛しているが、天気の良い日は短時間ではあるが、玄関先にベンチを出して日光浴や花を眺めたりして、季節の移ろいを感じてもらったりしている。また春や夏には、プランターに野菜や花の種植えをしている。	感染対策により、日常的な外出は控えているが、春には近場にお花見ドライブに出掛けた。受診後に少し寄り道をしたり、窓越しだが気分転換になればと思っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で管理されている方はいらっしゃいませんが、希望があればご家族様に確認を取って対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、お手製の年賀状を送っている。郵便物や贈り物が届いた際は、電話確認している。電話の要望があれば都度対応している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム田園 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員で協力して作成した季節の作品を飾り、四季を感じられるよう工夫している。花壇には季節の花が咲くよう配慮し、ベンチで外気浴を楽しんでいる。玄関やベランダに季節の花を飾っている。廊下には、行事の写真を飾り思い出づくりの工夫をしている。	共有スペースは窓が大きく広く開放感があり、思い思いに過ごせる食堂兼談話室である。テレビの前にはソファがあり、利用者はそこで寛いでいる。環境美化委員会の職員の発案で、季節を感じさせる様々な飾りつけを行い、明るい雰囲気を作り出している。時間により、テレビ体操、ゲームなどで笑顔が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと座れるソファが4か所に設置しておりそれぞれに音楽を聴いたり外の景色を眺めたり利用者同士でお話ができるよう配慮している。少し離れた場所にもベンチや椅子を配置しており自由な空間を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参して頂けるようお願いしている。いすやカーペットは転倒の危険がある場合は家族と相談しながら臨機応変に対応している。	居室は広く、電動ベッド、クローゼット、ヒーターが備え付けられている。空調は、職員が居室を確認し調整している。テレビや家族写真、お気に入りのカレンダーを飾り、自分らしく落ち着いて過ごせるわが家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように、張り紙をしている。部屋の場所が分かるように、「〇〇さんのお部屋です」と居室ドアに大きく表札をつけている。又、近隣にカレンダーや飾り物を置き、目印になるよう工夫している。		